



静岡大学

グローバル共創科学部

Faculty of Global Interdisciplinary Science and Innovation

2027



静岡大学
Shizuoka University



未来社会の課題に挑む、 イノベーションの創造拠点

現代社会は、気候変動、貧富の格差、地域社会の衰退など、一つの専門分野だけでは解けない複雑な問題に直面しています。こうした課題を解決するには、異なる分野の知識を組み合わせ、さまざまな立場の人々と力を合わせる姿勢が不可欠です。しかし、従来の大学教育では専門分野を深めることに重点が置かれがちで、複雑な社会問題に多角的に向き合い、実践的な解決策を生み出す人材の育成は、いまだ十分とは言えません。こうした現状に真摯に向き合うため、静岡大学グローバル共創科学部 (Faculty of Global Interdisciplinary Science and Innovation) は設立されました。学部名に掲げる「Innovation (イノベーション)」という言葉が示すとおり、本学部は社会に新たな価値をもたらす人材の育成を根本理念としています。専門知識の習得にとどまらず、社会課題の解決に主体的に取り組む「共創型人材」を育てること——それが本学部の使命です。既存の教育の枠にとらわれることなく、未来社会の創造に貢献できる、全く新しい教育プログラムをここに用意しています。

本学部の独自性：3つの柱

本学部の教育は、以下の3つの柱によって支えられています。

1. 文理融合による多角的視点の涵養：理系・文系という従来の区分けを超えて、自然科学・人文社会科学・情報科学等を横断するカリキュラムを学びます。一つの視点だけでは見えにくい問題の本質を多角的に捉える力を養い、基礎知識を土台に専門的な学びを積み上げることで、既存の枠にとられない独創的な思考——イノベーションの源泉となる力——を育みます。

2. 実践的学びを通じた問題解決能力の向上：地域や海外の現場に実際に赴き、そこで暮らす人々や働く人々と対話しながら課題に取り組む経験を大切にしています。教室で学んだ知識は、現実の問題と向き合ったとき初めて生きた力になります。フィールドワークや海外研修を通じて、状況を読み取り、他者と協力しながら解決策を考え抜く力——社会に出てからも必要とされる力——を、在学中に着実に身につけます。

3. データサイエンスに基づく客観的分析能力の育成：データサイエンス、AIリテラシー、統計的思考を基礎から学びます。「なんとなくそう思う」ではなく、データと根拠に基づいて物事を判断する力は、どのような分野に進んでも欠かせません。複雑な課題に対しても、論理的かつ着実な解決策を導き出せる人材を育てます。

未来を担う人材育成への取り組み

本学部の教員は、それぞれの専門分野で高い知見を持つ経験豊富な研究者・教育者で構成されています。自身の専門性を軸にしながらも、常に他者や異なる分野と連携し、ともに新しい価値を生み出す姿勢を大切にしています。そして、学生一人ひとりの成長を丁寧にサポートし、多様な視点からの指導を通じて、それぞれの潜在能力を最大限に引き出します。ここでの学びが、皆さんにとって社会課題と真摯に向き合い、未来を切り拓くための確かな礎となることを願っています。世界とつながり、地域と深く関わりながら、ともに持続可能な未来を創造していきましょう。

グローバル共創科学部長 **江口 昌克**

教育の特徴

① 幅広い分野の学び

人文・社会科学系から自然科学系科目に至るまで幅広い分野を学ぶカリキュラムを設置しています。また様々な専門分野の教員が協働で授業を実施する科目を多数設置し、複数の専門知を繋げ、ものごとを複眼的に考える経験を積みます。

② 実践型・体験型の学び

フィールドワーク、海外研修、スピーキングを中心とした英語科目など、実践型・体験型の学びを重視しています。特に海外研修は、全ての学生が留学(オンラインを含む)を経験することを目標とします。

③ データサイエンスの学び

社会的課題に取り組む上では、その課題や背景にある要因を客観的に分析するため、エビデンスを示す上で必要不可欠である数理・データサイエンス・AI関係の科目を設置しています。

④ アートやデザインを用いた 創造的な思考や解決力の養成

複雑化する社会の要請に応える新しい時代のカリキュラムとして、感性的なコミュニケーション手段としての「アート」や「デザイン」に触れられる科目群を充実させ、社会的課題の解決策を発想するための「クリエイティブ・マインズ」を育成します。

⑤ スポーツによる 表現・思考・人間性の開拓

ウェルビーイングには、心のはたらし(楽しさ・喜び)と共にある身体的重要性が欠かせません。心と身体が一体となって展開されるスポーツ実技やエクササイズや、その活動を支えるマネジメントやコーチングに関する科目を学修することで、ヒューマンタッチな信頼社会をリードできる人材養成を目指します。

学びのアドバイザー制度

本学部では、初年次から4年間の学修全般をきめ細やかに支援・指導する「学びのアドバイザー」制度を設定します。学生一人ひとりに教員が学びのアドバイザーとなり、以下の項目を中心に、履修計画から学生生活全般に至る内容について、年数回個別面談を行います。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 履修登録に関する事項 | 6. 進路・就職等に関する事項 |
| 2. 履修モデル構築に関する事項 | 7. 学籍異動(休学、退学等)に関する事項 |
| 3. 学修の進め方に関する事項 | 8. 成績不振学生への助言や指導 |
| 4. コース分属に関する事項 | 9. 大学生活についての相談等 |
| 5. 研究室配属に関する事項 | |

特に、文理融合型の複雑な学修過程の中で主体的な学修ができるよう1年次には1～3の事項を、2年次では、学生が意欲的に専門教育を受けられるように4に関する事項を、更に3年次は5、6について重点的に支援・指導を行います。なお、資格の取得に関しては、3の一部として、4年間を通じてアドバイスを行います。

よくある質問 (FAQ)

グローバル共創科学部に関するよくある質問についてへの回答をウェブサイトに掲載しています。



カリキュラム

本学部では、広い視野を持った人材を育成するため、共創科学系科目、人文・社会科学系科目、自然科学系科目、コース専門科目を設定し、基礎から専門までをバランス良く知識を修得するように科目を配置しています。さらに、社会的課題を的確に捉え、多様な人々と協働して課題を解決するために必要な能力を養う目的で、グローバル系科目、データサイエンス系科目を設置しています。

以上のように、基礎知識、専門知識、共創の手法、これらの知識・能力がバランス良く育成されるカリキュラムが構築されています。学問領域の分野の垣根を越えた多様な知の交流を促すことを重視する観点から、1学部1学科3コース制とし、学生は3年次からコースへ分属されます。

カリキュラムマップ（抜粋）

※本カリキュラムは令和8年度のもので、令和9年度以降は変更の可能性があります。

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次	4年次
全コース共通の基礎的カリキュラムで文理融合分野を幅広く学ぶ				3年次から各コースに分属	
共創の 基礎となる考え方、 概念を学ぶ科目 バイオエコノミー概論、 国際地域社会とダイバー シティ、 総合人間科学概論 など	フィールドワークなど体験を重視する科目 コラボラティブ・アプローチ基礎演習、コラボラティブ・ワークスⅠ～Ⅵ など 社会的課題を解決し、より良い未来社会を実現するため、現場で多様な立場の人々と 共に取り組む経験を積みながらその基礎を学びます。			卒業研究 主指導教員と副指導教 員による指導の下、課題 解決に向けた研究を実 施します。	
	コミュニケーション中心の外国語（英語）の科目 Oral CommunicationⅠ・Ⅱ、Reading & DiscussionⅠ・Ⅱ など 1年次後期～3年次にかけて実践的な英語を学びます。				
	海外研修プログラムⅠ 語学短期留学やオンライン研修など海外研修を経験する事で、 実践的な語学力を養成します。			海外研修プログラムⅡ 交換留学（半年～1年）や 教員主催の専門的海外研修など	
データサイエンス系科目 基礎数学、データサイエンス基礎、プログラミング演習Ⅰ、AI基礎 など 文部科学省 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度応用基礎レベルに認定されています。				国際地域共生学コース専門科目 生命圏循環共生学コース専門科目 総合人間科学コース専門科目 各コースにおいて取り組む課題に応じて専門的な 知識・能力を深めます。 自コースのコース専門科目を重点的に履修しますが、 他コースのコース専門科目も履修することができます。	
補習講義 (リメディアル教育) 英語補習講義、 統計数学入門、 化学・生物入門 など					
人文・社会科学系科目 国際地域共生概論、人間の尊厳と人権、現代社会の認知科学 など 自然科学系科目 暮らしの科学、スポーツ・健康科学、カーボン・ニュートラル科学 など 人文・社会科学から自然科学に至る複眼的視点から社会的課題を検討する上で、 必要な知識を獲得します。					
教養基礎科目 新入生セミナー、英語コミュニケーション、キャリアデザイン など 在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけます。					
教養展開科目 哲学、世界のことばと文化、科学と技術 など 広い意味の教養を身につけるための科目です。					

取得できる資格

文部科学省 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 応用基礎レベル



指定する科目の履修（必修科目で構成）

公認スポーツ指導者資格（日本スポーツ協会公認）

指定する科目の履修とオンラインによる検定試験の受験が必要
※資格取得のためには、別途、講習会を受講することが必要

スポーツコーチングリーダー（日本スポーツ協会公認）

指定する科目の履修とオンラインによる検定試験の受験が必要

自然再生士補

指定する科目の履修が必要

環境再生医（初級）

指定する科目の履修が必要

コラボラティブ・ワークス

他者と協働し、知をつなぐ方法を実践的に身につける



コラボラティブ・ワークスとは

複雑化する社会的課題を解決し、より良い未来社会を実現するためには、多様な人々とともに課題解決に取り組む必要があります。本学部では学生が社会的課題への取り組み方を学び、持続可能な未来づくりの担い手（共創型人材）になるための力を養う授業として「コラボラティブ・ワークス」を実施しています。授業では実際に課題が生まれる現場で、専門家や、企業、自治体、地域住民など現場の関係者とともに課題解決に向けて協働する経験を積みます。取り組むテーマは福祉や環境、スポーツなどさまざま、実施方法はアクション・リサーチを中心に、企業との共同研究や自然観察、まちづくりなどテーマに適した方法で行います。現場で真摯に取り組み、学びましょう。知をつなぎ、成長するみなさん自身が未来の担い手です。



コラボラティブ・ワークスの多様なワーク



移民が生きる街と「ともに生きる」活動 ワーク18

日本で生活する多様な出自を持つ移民とかかわり、静岡で「ともに生きる」活動を行います。そのために、文献や講演で移住の経緯や特徴を学び、次に移民の人たちの組織を作ってきた人や団体の方々を訪ね、その関係形成、課題解決、組織維持、地方自治体との関わり方を学び、自分たちができることを考え、一緒に企画・実行していきます。2026年度からは静岡市内の2つの団体と協力して、交流活動と課題解決型の活動を展開します。



地域の共有資源としての森林の保全と持続可能な利用 ワーク5

このワークでは南アルプスの広大な森林の環境を守りつつ、観光・教育・娯楽など多様な場面で森林を地域の共有資源としてサステナブルに活用していくための活動を10年計画で展開しています。事前学習では南アルプスの自然、地形、歴史等を学び、年2回の現地研修では防鹿柵設置、登山道整備などの作業を行いました。また年度末にはAIカメラを使った動物の生息調査の結果を元に図鑑を作成しました。このほか林業（天竜）や木育（御殿場）について学び、参画する活動も行っています。



海外研修プログラム



海外研修プログラムII 教員企画プログラム



世界がキャンパス！海外で
社会課題を見て聞いて話して考える



海外研修プログラムI

現地海外研修またはオンライン海外研修に参加し、研修先で使われている言語によるコミュニケーション力、異文化理解、国際感覚を身につけます。現地研修では、現地の大学や語学学校等で語学研修を受けるとともに、現地で開催される様々なアクティビティに参加したり、現地の学生や地元の人達との交流を深めたりします。オンライン研修では語学に加え、社会課題を調査したり、修得したスキルを生かして英語で発表したりします。研修終了後はその成果を学内で発表します。

海外研修プログラムII

海外の大学や研究機関、NPO、企業、国際機関などで、より専門的でアカデミックな内容を学ぶ研修です。研修先機関が提供する授業や、研究室交流、企業訪問、インターンシップ、現地フィールドワークなどを通して、自分の専門分野を海外の視点から深く理解します。また、現地の学生や人々との交流で国際感覚や異文化理解を高めます。事前学習や帰国後の成果発表を通してこれまでの学修内容と海外研修での経験を結びつけて専門科目の理解を深めるとともに、今後の学びに生かします。

留学先

短期：イギリス チェスター大学
長期：チェコ マサリク大学

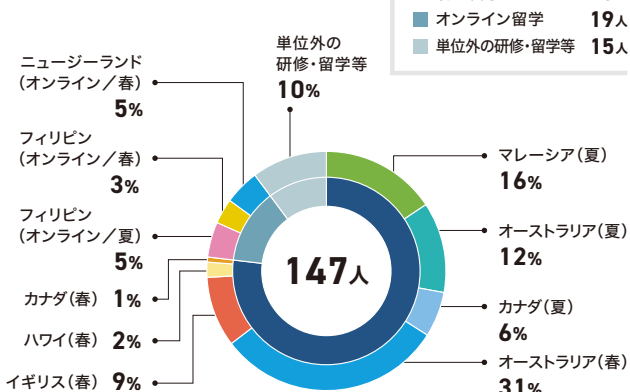
“ 留学は自分と向き合い、成長できる期間 ”

国際地域共生学コース 4年
大賀 百華さん

私は1年次の春休みに、イギリスのチェスター大学へ1か月間の語学留学を経験した後、3年次の秋学期から1年間、チェコのマサリク大学へ交換留学をしています。もともと大学入学前から交換留学に挑戦したいという思いがあり、語学留学はその準備として参加しました。交換留学を決めた理由は、英語力や異文化理解を深めたいという思いに加え、自分のコンフォートゾーンを抜け出し、新しい環境に挑戦したかったからです。留学前は留学要件にあるTOEICの勉強に力を入れました。マサリク大学では学部を問わず授業を履修できるため、興味のある分野を幅広く学んでいます。特に日本語学科でのTeaching Assistantの活動は、初めての経験で多くの発見がありました。留学は自分と向き合い、成長できる期間です。少しでも興味がある方は、その気持ちを大切に挑戦してみてください。

海外留学の実績について

短期留学留学先(令和5～7年度実績)



海外研修プログラムII 留学先

● 交換留学(半年～1年間)実績(令和8年度渡航予定を含む)

アルバータ大学(カナダ)/アレクサンドル・イワン・クザ大学(ルーマニア)/ヴァッパタール大学(ドイツ)/オプダ大学(ハンガリー)/コメニウス大学(スロバキア)/SRM大学(インド)/ソフィア大学(ブルガリア)/チェンマイ大学(タイ)/テイラズ大学(マレーシア)/釜山大学校(韓国)/マサリク大学(チェコ)/ロレーヌ大学(フランス)など

● 教員企画海外研修プログラムの一覧

国・地域	プログラム名	研修先
インドネシア/ジャカルタ	アジアで働く人の背景を学ぶインターンシップ	人材送出機関、JICA、IOM、国際交流基金等
韓国/ソウル	K-Food戦略	生命科学大学、畜産加工研究所・工場等
韓国/釜山	海の環境をめぐるフィールドワーク研修	釜慶大学、干潟フィールド等
台湾/台北	グローバル・ジャパン	世新大学、台北市内、烏来地区等
バングラデシュ/ダッカ	グローバルな課題に取り組む現場	NPO、JICA、JETRO、国連機関、日系企業等
米国/カリフォルニア	多様性と実用英語	カリフォルニア大学、日系食品企業等
米国/グアム	文化を映す特産物による地域振興	グアム経済開発機構、現地中小企業等

スポーツ・健康科学

「スポーツ」は、自分でプレーする楽しさはもちろん、観戦するだけでもワクワクする魅力があります。そして、その面白さの裏側には、実はさまざまな“サイエンス”が関わっています。最新のトレーニング法やシューズ・ウェアの開発、栄養、さらには遺伝子研究まで、スポーツは多くの科学研究によって支えられています。この授業では、スポーツと健康について科学的な視点から学びます。健康や体力の考え方や評価方法、発育発達に応じた運動、アンチエイジング、女性スポーツ、暑さ・寒さへの身体の適応、低酸素環境でのトレーニングなど、身近で興味深いテーマを幅広く取り上げます。また、アスリートの競技力向上だけでなく、子どもから高齢者まで、ライフステージに応じた健康づくりとしてのスポーツについても考えます。授業では毎回スポーツに関するトピックを取り上げ、仲間との対話や意見交換を通して理解を深めます。スポーツや健康に関わる様々な疑問を、科学の視点から楽しく探究していく授業です。

スポーツや健康の
“なぜ？”を科学する



データサイエンス演習

データから価値を生み出す
技術を学ぶ

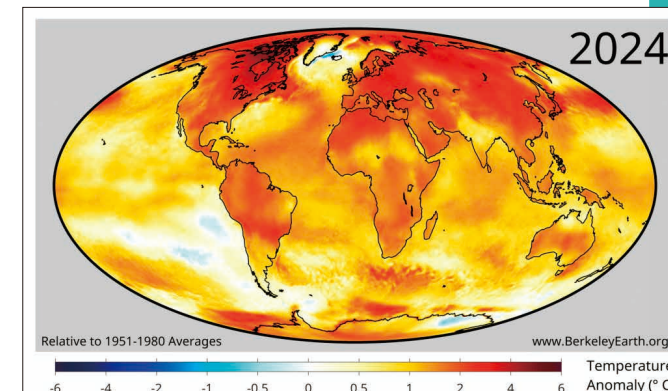
これからの社会において、データはあらゆる分野で生み出されるようになります。しかし、データをただ観察するだけでは多くの知見を得られず、主観を伴った判断に結びつく危険性があります。データを処理する際には、適切な手法を選択し、正しい手順で行う実践力が求められます。本学部では「データサイエンス基礎」で統計学を含むデータ処理の基礎理論を学びますが、知識だけでは現実生じている問題を解決できません。そこで、学んだ分析手法をコンピュータによる演習形式で実践・習得するのが、本科目「データサイエンス演習」です。本演習を通じて、分析結果を現状の正確な把握や重要事項の決定などに役立てるための基礎技術を身につけます。具体的にはGoogle Colaboratoryを用いてスクリプトを作成し、有意差検定(χ^2 乗検定、マン・ホイットニー検定、t検定)、重回帰分析、主成分分析などを実践的に学びます。



カーボンニュートラル科学

脱炭素社会実現のための
科学、技術、政策を総合的に学ぶ

4人の教員がリレー方式で授業を担当することにより、地球温暖化の科学(現状・将来予測・被害)から、二酸化炭素等の排出を削減しカーボンニュートラル(脱炭素)社会を構築するための様々なテクノロジー(パイオ関連が中心)、そしてそれらを社会実装していくために必要な政策・措置までを総合的に学ぶことができます。下記に主な授業テーマを紹介します。1.5℃目標とカーボンニュートラル/バイオリファイナリーの基礎/微生物による物質生産/リグノセルロースの有効活用/セルロース-樹脂複合材料の利用/グリーンコンボジット/太陽光エネルギーの利用/熱エネルギーの利用/光合成の反応機構/環境に適応した光合成/バイオ燃料/日本と欧州諸国におけるカーボンニュートラル政策の展開補助教材(動画)により、担当教員以外の本学教員による最新のカーボンニュートラル研究についても知ることができます。





国際地域共生学コース

“現代に生きる人々が
より創造的かつ友好的に暮らすための課題”

学びのポイント

格差・貧困、差別・排除、紛争・対立など、価値観や文化が異なる人々の共生を阻む様々な課題が世界で発生しています。本コースでは、人々の多様性への理解及び地域社会と国際社会の関係性への理解に基づいて、国際化する地域社会に適した人権、法、社会保障の構築、包摂的な生活環境や災害への対応などに代表されるような地域社会の課題を地球規模の視点から読み解き、多様な人々と協働し、文化・産業・生活など地域独自の魅力・価値を活かして課題の解決を構想・発信できる人材を育成します。

想定する進路

海外の企業や政府などと協働して
事業を実施できる企画・営業職

包摂的な地域社会の拠点形成を
担う福祉・教育団体の総合職

地域の魅力の創出・発信に専門性を
発揮する公務員



コース専門科目紹介

● 防災まちづくり

災害に強く誰もが安心して暮らせるまちをめざし、地域活性化や多文化共生、観光などのまちづくりに、防災・減災の視点をどう取り入れるかを、調べて考え提案します。現場で活躍する人にインタビューも行います。

● エスニシティ論

この授業では、民族の違いが社会の中でどのように形成され、意識されるのかを学びます。さらに、それらが社会に及ぼす影響を考察し、多様性や差別、アイデンティティの問題について多角的に理解を深めます。

● 国際福祉社会論

就労、失業、育児・介護など人が生きてゆく上で経験する事柄がグローバル化の進展にともなってどのように変化しているのか、また、それらの変化に社会はどのように対応しているのかを通して、持続可能な社会を構想する視点を得ます。

● グローバル協力論

途上国の社会・経済の開発や環境問題等、グローバルな課題の解決について、その理念・理論、国際協力の枠組や、国際機関、NPO/NGO、多国籍企業、社会企業、自治体、政治的文化的集団、個人など多様な主体を分析します。

● 比較文化から見る法

法律は社会の産物であるため、その歴史的・文化的背景を検証しなければ本質は理解できません。本講義は日本と諸外国の比較を通じ、社会構造の違いが法制度にどう反映されるかを考察し、複眼的な思考力や洞察力を養います。

● 視覚芸術論

美術史・芸術学・美学を横断し、先史から現代までの視覚芸術の展開を学びます。作品の見方を深めながら、芸術を考察するための基礎的なアカデミックスキルも身につけます。

在学生インタビュー



Q 本コースに入った理由は 何ですか？

自分自身が関心のあった防災やまちづくりについて、より深く学ぶことができると考えたからです。また、ローカルからグローバルな課題までを多様な視点から学び、様々な立場の人に寄り添いながら課題解決を考えられる点に魅力を感じたからです。

Q 本コースの魅力は 何ですか？

興味のある授業が幅広く用意されていることに加え、地域や社会について学ぶうえで、多様な専門分野を持つ先生方から指導を受けられる点が大きな魅力です。また、地域と芸術学や社会学など様々な分野と関連づけて考えることができるため、自分の興味や関心を明確にすることができました。

Q 大学生活で楽しい時、 大変な時は？

楽しい時は、自分の興味関心をもとに主体的に行動し、地域の方々や様々な世代の人と関わりながら学べる瞬間です。

特に、実際に地域へ足を運んで行うフィールドワークでは、教室では得られない新しい発見や出会いがあり、大きな刺激と学びを感じています。

Q 将来の夢は何ですか？

自分が生まれ育ったまちのように、少子高齢化や過疎化が進む地域など、社会問題を抱えた地域に貢献し、誰もが安心して住み続けられるまちづくりに関わりたいと考えています。将来的には、まちづくりに関わる企業や団体、または地方公務員として、現場に寄り添いながら地域課題の解決に携わりたいです。





生命圏循環共生学コース

“ 新たな価値を創出し、
持続可能な循環型社会を実現するための課題 ”

学びのポイント

本コースでは、気候変動や生物多様性の危機、環境汚染などの問題に対応し、資源やエネルギーの再生、自然と経済とが両立できるグリーンエコノミーの実現、激甚化する自然災害の被害低減など課題において、技術と制度の両面からサステナブルな社会の構築に貢献できる人材を育成します。

想定する進路

グリーンエコノミーに精通する
企業国際戦略部門のマネージャーや
自治体・官庁職員

防災対策を専門とする
環境・建設コンサルタントや
自治体職員

企業等工場の
生産工程における品質管理、
環境マネジメントを行う職員



コース専門科目紹介

● 環境再生科学

産業活動に伴う環境問題を科学的・社会的観点から学び、環境破壊のメカニズムや背景を理解するとともに、持続可能な社会構築に必要な解決策を、政策・法律面も含めて多面的かつ実践的に考える力を養います。

● 材料科学

電子製品、自動車部品などを構成する材料について、原料は何か、どのように製造されているか、なぜその材料が使われているか等を学び、さらに製品、材料のリサイクル性について学ぶ講義です。

● 農村・森林の環境と法

この科目では、農業の多面的機能、森林の公益的機能に着目しながら、関連する国内・国際法制や政治・経済・社会情勢等を概観することを通して、＜食と農＞と環境、森林と環境について、その歴史・現状・課題を学びます。

● 資源循環化学

脱炭素社会を実現するため、材料、エネルギー分野の将来あるべき姿について、現状を理解し、学生達が現在あるいは将来の自分がどのようなアプローチで何ができるかを考えるための講義です。主役は学生です。

● 遺伝と進化

生物には、次世代に正確に性質を伝える「遺伝」と環境に適應する「進化」という一見矛盾する現象があります。本講義では、これらを分子生物学の観点から学習します。

● 環境工学

地球温暖化、大気・水質汚染、海洋汚染、廃棄物問題などの現状と原因を学び、環境問題を解決する技術や最新の研究事例を通して、持続可能な社会のあり方を考える授業です。

在学生インタビュー



Q 本コースに入った理由は 何ですか？

入学当初はスポーツに関連する運動生理学や生体機能に関心がありましたが、3年間で幅広い分野を学ぶ中で、生化学分野への興味が深まり、本コースを選びました。

Q 印象に残っている授業や 活動は何ですか？

「環境共生社会論」が印象に残っています。この授業では、さまざまな環境問題を解決するために何が必要なのかを、「現場」の状況に即して考えることを学びました。特に、環境に関する技術や政策を導入する際には、問題に直面している地域住民の立場を考慮することが重要であると感じました。

Q 本コースで学んで、 自分が成長したと感じる 点は何ですか？

現在は実験系の研究室で卒業研究に

取り組む一方で、環境政策を専門とする副指導教員のゼミにも参加しています。その中で、一つの問題をさまざまな視点から捉える力が身につき、自分自身の視野が広がったと感じています。

Q 将来はどのような 進路を考えてい ますか？

大学院の修士課程に進学した後、食品、飲料、製紙メーカーなどの技術職に就くことを希望しています。





総合人間科学コース

“人間とはどうあるべきかを問い続け、
真の豊かさを主体的に実現するための課題”

学びのポイント

人のウェルビーイングは、身体、心、周囲の環境など、さまざまなものに影響を受けていることから、本コースでは、スポーツ科学、心理学、身体科学、法学、倫理学等の多様な学問を通じて人間のウェルビーイングを探究します。また、やがて到来するSociety5.0では、AI・ロボットとの共生が不可欠であることから、AI・ロボットと人間との違いは何か、こうした社会において人間の生活や幸福はどのような影響を受けるのかについても考察し、変化し続ける社会において人間の幸福を主体的に問い続け、実現することのできる人材を育成します。

想定する進路

プロスポーツ団体(スポーツ協会)の職員、
地方自治体のスポーツ振興を
所管する部署の職員

地方公共団体における
デジタル振興や地域振興を所管する
部署の職員

IT企業で人間中心の
サービス・製品の開発に関わる
企画職



コース専門科目紹介

● デザイン心理学

デザイン心理学の授業では、認知心理学や認知工学、ユニバーサルデザイン、参加型・共創デザインの手法の基本を学び、人が道具を利用する過程である相互作用場面での心理を理解、分析できるようになる知識やスキルを学びます。

● スポーツ経営学

スポーツ経営学は、スポーツ事業の理論と実践について学ぶ講義です。例えば、スポーツクラブ経営の理念や運営方法を議論するとともに、現場調査を通じて経営者や顧客のニーズを調査・分析し、課題解決へと迫ります。

● 生命・医療倫理学

医療の領域では、20世紀以降、価値観の変化や科学技術の進展のために、安楽死や遺伝子検査など、さまざまな倫理的課題が生じてきました。本講義では、こうした課題の概要と論点を、映像資料を交えながら解説します。

● 健康・医療心理学

「なぜ人は、病む前に助けを求められないのか」。ストレスから災害支援まで、心と社会をつなぐ視点で健康問題に挑みます。保健・医療・福祉と地域コミュニティをまたいで、予防から回復まで人の暮らしに寄り添う心理学です。

● 人間行動科学と刑事政策

犯罪を生み出す要因とは——本人の素質か環境か、社会・制度のあり方や人々の態度が関係していないか。どんな対策をとればいいのか——ただ刑罰を科せばいいのか、そのほかに何がなぜ必要なのか。事実と規範を総合して考えます。

● スポーツの理論と実践 I・II

スポーツ活動を実践しながら理論を学び合う演習型授業です。健康および競技志向スポーツを題材に、運動学/スポーツ・健康科学に基づいた実践法を修得し、ウェルビーイング社会に向けたスポーツの役割を考えます。

在学生インタビュー



Q 本コースに入った理由は 何ですか？

もともと「人間」そのものに興味があり、人の考え方や行動、社会との関わりについて学びたいと考えていました。本コースでは、心理学や法学など多様な分野を学ぶことができます。一つの視点だけでなく、多角的に人や社会について考えられる点に魅力を感じ、本コースを選びました。

Q 勉強以外で頑張っている ことはありますか？

100人規模のよさこいサークル「お茶ノ子祭々」に所属し、幹部を務めました。仲間と一から演舞を作り上げ、大会やお祭りで披露する時間は、大学生活の中でも特に思い出深い時間です。学年学部を超えて多くの友人ができ、何かに本気で熱中できる貴重な経験になりました。

Q 卒業研究では何に 取り組んでいますか？

「できない子」と見なされた経験が子どもの自己評価に与える影響について研究しています。学校や家庭での周囲の言葉や関わり方が、子どもの心理にど

のような影響を与えるのかに関心があります。より良い支援を通して、子どもが安心して成長できる社会につなげたいと考えています。

Q 将来の夢や進路は 何ですか？

人の可能性や挑戦を支える仕事に携わりたいと考えています。大学では、人や社会について多角的に学ぶ中で、一人ひとりが自分らしく成長できる環境の大切さを実感しました。こうした学びや経験を生かしながら、誰かの一步を後押しし、新たな挑戦を支援できる社会人になりたいです。



教員紹介

Faculty Introduction

グローバル共創科学の様々な知識・専門分野を持つ教員を紹介します。



池田 恵子
Ikeda Keiko

国際地域共生学コース

- 災害社会学
- ジェンダー研究
- 南アジア地域研究

インクルーシブな視点で災害に強い地域づくりを！

日本とバングラデシュを中心とした南アジアの国々を対象に、頻発する自然災害への対応・適応の観点から暮らしや社会組織・規範のあり方を研究しています。社会や個人の災害への強さや弱さは、地域開発や社会政策の展開によってどう変わるのか？ 住民参加型の地域防災事業の有効性とは？ 性別や立場によって異なる被災のニーズに対応するために必要な体制とは？ フィールドワークを通して、これらの疑問に取り組んでいます。



主な授業科目 ● 防災まちづくり ● グローバル協力論



太田 美帆
Ota Miho

国際地域共生学コース

- 社会学
- スウェーデン福祉国家制度と市民社会

グローバル時代の社会保障と人々の暮らし

スウェーデンを対象に、(1) 過疎地域の地域活性化、(2) EU政策が過疎地域での取り組みや行政活動に及ぼす影響、(3) 移民・難民など国外生まれの人々が増える中で労働市場や福祉国家制度がどのように変化しているのかを研究しています。それらを通して、グローバル化が進む中で人々が協力してより幸福な生活を送るためには何が必要か、またそれを支える公正で持続可能な社会的制度とはどのようなものなのかを考えています。



主な授業科目 ● 国際福祉社会論 ● コラボラティブ・ワークス I～IV



定松 文
Sadamatsu Aya

国際地域共生学コース

- 国際社会学
- ジェンダー研究

日本の移民をジェンダー視点から考える国際社会学

日本に来る、在住している移民女性、特に家事・介護の仕事をしている移民女性たちの移動の制度と実態、社会的課題をジェンダーの視点から研究しています。1980年代から国際移民の半数は女性になり、日本もその傾向がありますが、他の受入れ諸国とどのような違いがあるのか、なぜ違うのか、さらになぜ家事・介護分野に集中しているのか、問題点は何かなど、移民の出身国、仲介する多様なアクター、支援団体、そして移民女性への聞き取り調査から明らかにしようと試みています。



主な授業科目 ● 社会的排除とソーシャルインクルージョン ● 国際地域社会とダイバーシティ



石川 宏之
Ishikawa Hiroyuki

国際地域共生学コース

- 建築計画
- 都市計画
- 地域施設計画

地方都市中心市街地を活性化するエリアマネジメント

今日、人口減少時代の市街地形成の概念としてコンパクトシティへの転換が求められています。中心市街地における低未利用地の再編・マネジメント手法、都市機能を誘導する地区のあり方、地域遺産を活用した都市再生手法など、計画技術に関することを研究しています。また、授業「都市計画論」では、近代都市計画から現在の都市計画を踏まえて個別の建築物がどのように計画され、建設されているか都市計画上の方法を講義しています。



主な授業科目 ● 住居計画 ● 都市計画論



川崎 和也
Kawasaki Kazuya

国際地域共生学コース

- 文化人類学
- オーストラリア先住民研究

グローバルな時代を生きる先住民・少数民族のいま

オーストラリアには、アボリジニと呼ばれる先住民の人々が暮らしています。18世紀の後半以来、彼らの社会や文化、生活はめまぐるしく変化を遂げてきました。近年では、交通・情報通信技術の発達もめざましく、人・モノ・情報の移動はますます活発となっています。このような状況下で生きるアボリジニの社会や文化、生活の動態について、文化人類学の視点から研究しています。



主な授業科目 ● エスニシティ論 ● コラボラティブ・ワークス I～IV



朱 嘩
Zhu Ye

国際地域共生学コース

- 民法
- AIと法
- 高齢者支援方策

ぜひ広く、深く思考する習慣を身につけましょう！

研究生生活をスタートして以来、民法を中心に比較研究を行っています。各方面のご支援をいただきながら、シンポジウムやセミナーなどの開催を企画し、国際的、学際的な交流を深めることに務めています。最近では、AIと法やパーソナルデータの利活用について研究活動を展開しています。また、令和4年8月よりICT介護の先駆者であるインフィック社との共同研究をスタートし、AI時代に対応しい高齢者支援策を模索しています。



主な授業科目 ● 比較文化から見る法 ● 国際地域ケーススタディ



立花 由美子
Tachibana Yumiko

国際地域共生学コース

- 博物館学
- アートマネジメント
- キュレーション

ミュージアムはだれのものか

日本の美術館固有の「市民」像に研究の関心を置いています。「○○の国のお国柄」といわれるように、各国の市民像はそれぞれ異なっており、これに伴い各国の博物館学もそれぞれの市民像から議論を始めるべきと考えるからです。美術館の向き合うべき市民は、なにも美術館に来てくれる人ばかりではなく、まだ美術館に行ったことがない人も含まれています。そうしたあらゆる市民の生の声から、日本の美術館像を考えています。



主な授業科目 ● ミュージアム・スタディーズ ● 視覚芸術論



坪井 秀次
Tsuboi Shuji

国際地域共生学コース

- 経営学
- イノベーション学
- 行政学

常識を超えて！イノベーションを特別から標準に

不安定なVUCA時代では、複雑化する経営課題を1つの分野や常識の範囲で解決するには限界があります。他分野と新たな結合を起こしてマーケティングや戦略を駆使し、マネジメントをしていく必要があるのです。すべての人がイノベーションを起こせる社会を目指してイノベーションを特別から標準にするために、組織イノベーション、イノベーターの人材育成、マーケティング戦略、マネジメントサイクルなどの研究を進めています。



主な授業科目 ● 現代マーケティング論 ● マネジメント論



松澤 祐介
Yuusuke Matsuzawa

国際地域共生学コース

- 国際経済学
- 金融論
- 経済政策

経済を通じたヨーロッパ地域研究

国境変更、社会主義化と冷戦、連邦解体・分離独立など国際情勢に翻弄されてきた小国の生存戦略への関心から、中東欧諸国を主たる対象として経済の観点でヨーロッパを分析しています。経済統合を進めてきたEUへの加盟、共通通貨ユーロの導入/未導入、金融市場統合の成果、市場統合での国境を超える人・モノの往来を支える交通、特に鉄道経営の改革を中心に、我が国の金融政策や交通政策との比較も念頭に置いた研究をしています。



主な授業科目 ● 国際地域共生概論C(欧米) ● グローバル協力論



チョ Chol 明子
Chochol Akiko

国際地域共生学コース

- 海外研修
- ミクロネシア連邦における日本語教育・英語教育

現地のニーズや学習者の背景文化を考慮した言語教育

みなさんはミクロネシア連邦を知っていますか。私はミクロネシア連邦のヤップ島とポンペイ島の教育機関で日本語教師を務めました。そこで、現地のことばや文化を尊重した英語教育について考えさせられました。現在は言語教育の観点から、教育実践を記述したり学習者の声を聴いたりして、現地のニーズや学習者の背景文化に沿った教材や教授法について研究しています。



主な授業科目 ● 海外研修プログラム I, II ● 英語コミュニケーション



Michael K. Peters
ピーターズ マイケル

国際地域共生学コース

- 文化人類学

スポーツ選手移住:文化探求

スポーツ・アスリート(男女)が国から国へと移動する軌跡に注目する事により、特定の国出身の特定の個人アスリートにとって移住が何を意味しているのかだけでなく、より良い生活への希望を抱く母国の他の多くの人々にとって、それが何を意味するかを知ることができます。アスリート個人の移住経験を知る事により、アスリートが移動する国だけでなく、彼、彼女の本国、つまり二つの国の文化について理解を深めることもできます。



主な授業科目 ● Oral Communication I, II ● English Global Studies



山本 好比古
Yamamoto Yoshihiko

国際地域共生学コース

- 社会言語学
- 応用言語学
- スポーツ社会学

留学担当教員です

私は日本の大学では教育を受けていません。学士課程はニュージーランドの大学で、修士・博士課程はオーストラリアの大学で教育を受けました。語学留学も経験していますが、大学・大学院での留学とはとにかく勉強が大変でしたが、この時の経験は私の人生のにとってかけがいのない大切な物として残っています。皆さんも若いうちにぜひ海外に出て色々な経験を積んでください。



主な授業科目 ● 海外研修プログラム I, II ● コラボラティブ・ワークス I, II



青木 恵治
Aoki Kenji

生命圏循環共生学コース

- 複合材料科学
- 高分子化学
- 界面化学

セルロース系複合材料でカーボンニュートラルに貢献

植物の構成主成分であるセルロースとプラスチックとを混ぜ合わせた「セルロース/樹脂複合材料」の開発を行っています。植物は燃やしても光合成で固定した炭素がCO₂にもどるだけなので、大気中のCO₂濃度を上昇させないカーボンニュートラルな材料です。セルロースを活用することで脱プラスチックに貢献できます。セルロース/樹脂複合材料を自動車、家電などに社会実装させ、材料分野で未来の当たり前を創るのが私のミッションです。



主な授業科目 ● 資源循環化学 ● 材料科学



稲井 誠
Inai Makoto

生命圏循環共生学コース

- 有機化学
- 天然物合成化学

自然が創る有機化合物を化学の力で合成する

私は、自然界に存在する「天然の分子」がどのような形をもち、どんな働きをしているのかを明らかにし、それを自分の手でつくる研究を行っています。薬や材料のもとになる複雑な分子を効率よく合成する方法を開発し、植物や微生物に眠る有用な成分の新たな価値を引き出すことを目指しています。



主な授業科目 ● 材料科学 ● 暮らしの科学



金 キョンミン
Kim Kyeongmin

生命圏循環共生学コース

- 水環境工学
- 電気化学
- 環境微生物学

微生物で切り拓く水の環境とエネルギー

私は、「学びの楽しさ」を実感してもらうことを第一に、学生の悩みに寄り添い、リラックスして学べる雰囲気づくりを大切にしています。研究においては、微生物の力で水を浄化しながら同時に電気を生み出す「微生物燃料電池」技術の実用化に取り組んでいます。これは物理・化学・微生物学が融合した技術であり、グローバル共創科学部で学ぶ多様な基礎知識が、どのように最先端技術に応用されるかを実感できる分野です。



主な授業科目 ● 環境工学 ● 基礎物理学



板倉 美奈子*
Itakura Minako

生命圏循環共生学コース

- 国際法
- 環境法
- 環境政策

<公正><人権>という視点で環境問題に取り組む！

専門は国際法、とくに国際環境法・国際経済法です。環境と経済の両立、自然資源の保全と持続可能な利用のあり方、環境と人権・社会的公正といったテーマで研究を進めています。専門ゼミでは、カーボンニュートラル社会、バイオエコノミー社会、循環型社会、ネイチャーポジティブの実現に向けた学びをめざしています。大学での研究・教育にとどまらず、地域のさまざまな人びとと共創しながら、環境問題の公正な解決のために取り組んでいきたいと考えています。



主な授業科目 ● 農村・森林の環境と法 ● 地球環境問題と法



小野 晶子
Ono Akiko

生命圏循環共生学コース

- 応用微生物化学
- 分子生物学

分子育種で拓く菌類の可能性

大型の子実体(いわゆるキノコ)を形成する菌類を対象に、分子生物学・生化学的研究を行っています。現在名前が付いているキノコは、地球上に存在すると推定される種の1割未満に過ぎず、未発見の多さから研究資源の宝庫といえます。私は、キノコのユニークな性質を探索し、次世代シーケンシングによる遺伝子解析や、遺伝子組換え・ゲノム編集技術を用いて、環境問題の解決に貢献できるキノコの作出を目指しています。



主な授業科目 ● バイオテクノロジー ● 環境微生物学



小池 亨
Koike Toru

生命圏循環共生学コース

- 発生生物学
- 遺伝子工学
- 細胞生物学

動物の発生と組織形成・器官再生機構

動物の「発生」と「再生」は、古くから多くの人を魅了し続けている生命現象です。私の研究室では、棘皮動物に属するナマコや刺胞動物に属するクラゲといった、海洋生物を主に用いて、動物の発生や組織形成・器官再生の仕組みについて研究しています。特に組織構築の過程における細胞増殖・分化の制御や、細胞同士のコミュニケーションに関わる分子機構の解明を試みています。再生医療にも繋がるような基礎研究を目指しています。



主な授業科目 ● 生物多様性保全論 ● 基礎生物学



斉藤 俊貴
Saito Toshiki

生命圏循環共生学コース

- 天文学
- 宇宙物理学
- データ駆動天文学

銀河の成り立ちと進化、物質の進化

私たちの住む地球は太陽系にあり、その太陽系は天の川銀河の中に存在しています。銀河はいつどのように誕生し、138億年をかけてどうやって今現在の多様な色や形などの個性を獲得してきたのかに興味を持ち、「銀河形成・進化」「銀河とブラックホールの共進化」などをテーマに研究を進めています。近年は、観測技術の発展によりデータ量も膨大になりつつあるため、データサイエンスの天文学への応用にも取り組んでいます。



主な授業科目 ● 基礎数学 ● AI基礎



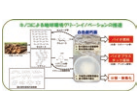
平井 浩文
Hirai Hirofumi

生命圏循環共生学コース

- 環境微生物学
- 環境微生物学
- バイオマス利用化学

キノコの力で未来の地球環境を守る！

現在の地球環境は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えています。これらの問題を解決すべく、キノコの仲間である白色腐朽菌のユニークな能力を活用して、木材を原料としたバイオ燃料(水素・エタノール)や生分解性バイオプラスチック原料を生産する研究(バイオリファイナリー)や、難分解性環境汚染物質(農薬、環境ホルモン、医薬品など)の分解・無毒化に関する研究(バイオレメディエーション)を行っています。



主な授業科目 ● 環境再生科学 ● カーボンニュートラル科学



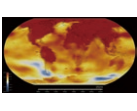
水谷 洋一*
Mizutani Yoichi

生命圏循環共生学コース

- 環境経済学
- 環境政策

カーボンニュートラルの経済学

環境問題の原因は人間の経済活動です。ですので、経済活動のあり方を変えなければ、その解決はできません。また、研究開発された様々な対策技術を実際に社会の中に組み込んでいく過程では、それを促進するような経済や社会の仕組みとセットで考えなければうまくいきません。私は、地球温暖化(気候危機)をめぐる、その対策のためにどのように経済や社会の仕組みやルールをつくらよいかを経済学の立場から研究しています。



主な授業科目 ● 環境と経済 ● カーボンニュートラル科学



崔 宰熏
Choi Jae-Hoon

生命圏循環共生学コース

- 天然物化学・生物化学

“おもしろい”がすべての出発点である

崔宰熏です。天然物化学を専門とし、菌類と植物の共生や代謝メカニズムを分子レベルで研究しています。フェアリー化合物を発見し、新たな植物ホルモンとしての可能性に挑戦中です。教育では分析化学などを担当し、研究室は学会やイベント、留学生との交流も盛んです。“おもしろい”を原動力に、毎年のBBQでは私が肉を焼きながら、楽しく学べる環境づくりを大切にしています。



主な授業科目 ● 分析化学 ● 基礎化学



堀池 徳祐
Horiike Tokumasa

生命圏循環共生学コース

- 分子進化学
- ゲノム科学
- 情報生物学

生物の多様化メカニズムを分子レベルで明らかにする

近年、様々な生物の遺伝子配列情報が利用できるようになってきました。当研究室では、大量遺伝子情報を活用し、情報解析によって生物の進化系統や多様化メカニズムを明らかにする研究を行っています。例えばハエトリソウ、フクロユキノシタという独立に食虫植物になった2種では、それぞれの祖先において複数の食虫に関連する機能を持つタンパク質が協調的に収斂進化し、食虫植物に進化したことが明らかになりました。



主な授業科目 ● 遺伝と進化 ● データサイエンス演習



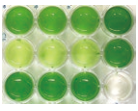
村上 博紀
Murakami Hiroki

生命圏循環共生学コース

- 植物・藻類分子生理学

微細藻類で持続可能な未来を創る

微細藻類を活用したバイオマス生産は、脱炭素社会の実現に貢献することが期待されますが、製造コストの高さが課題であり、実用化には多方面での技術革新が不可欠です。本研究室では、物質生産能の優れた微細藻類を研究材料として、生体内における有用物質の生産機構の解明を目指します。得られた基礎的な知見に基づき、代謝工学により物質生産能を改変した「スマートセル」を創出し、脱炭素社会の実現に貢献することを目指します。



主な授業科目 ● 安全管理 ● 遺伝資源・知的財産権論



祝原 豊
Iwaihara Yutaka

総合人間科学コース

- 健康体力学
- スポーツ科学
- バスケットボール

健康・発育・競技を支える体力学を考える

主に健康の維持増進を目的とした様々な運動が、身体へ及ぼす影響を運動生理学的側面から検証を重ねています。テーマとしては、競技者を含む様々な対象の各ステージや目的に応じた、より効果的で安全な運動実践の提示と、体力レベルに捉われないユニバーサルスポーツの検討があります。また、子どもの基本的動作を含む体力や運動遊びの環境に関する課題についても、地域での活動を通して探求と発信をしています。



主な授業科目 ● 身体機能のメカニズムと計測 ● 人体の構造と機能



杉山 康司*
Sugiyama Koji

総合人間科学コース

- スポーツ健康科学
- 運動生理学
- アウトドアスポーツ

トライ&エラー やらないの？やってみよう！

運動生理学はスポーツ/運動の効果について生体の応答や適応を探りながらヒトが本来持つ能力について解明していく学問です。例えば、2本のストックを歩行用に改良したノルディックウォーキングの運動強度や筋活動の特徴について明らかにした研究は杉山研究室の代表的な成果の一つです。とにかく、スポーツや運動の謎について実験をやってみる研究室です。スポーツ・ウェルビーイングに貢献する実験に挑みます。



主な授業科目 ● 運動生理学 ● スポーツ・健康科学



堂園 俊彦
Dozono Toshihiko

総合人間科学コース

- 哲学・倫理学

人の尊厳と両立可能な医療・研究のあり方を考える

医療や医学研究において生じる倫理的課題を扱う生命倫理学や医療倫理学を専門にしています。これらの領域では、患者の求めに応じて致死薬を投与してよいのか、新たな技術による生殖をどこまで認めるべきなのかなど、困難な問題が生じています。本研究室では、人の尊厳の保障を柱に、丁寧な対話を大切にしながら、これらの問題にどのように答えるのか、問題に直面する現場の方たちをどのように支えればよいのかを検討しています。



主な授業科目 ● ウェルビーイングの哲学 ● 生命・医療倫理学



江口 昌克*
Eguchi Masakatsu

総合人間科学コース

- 臨床心理学・コミュニティ心理学

心と社会をつなぐ心理・福祉臨床アプローチ

コミュニティ臨床心理学の視点から、虐待、不登校、ひきこもり、非行など、多様な心理社会的課題の解決に取り組んでいます。家族、学校、地域社会など関係するシステム全体の力動性を考慮したシステムズアプローチを用い、長期的な傷つきからの回復過程を分析。家族レジリエンスの促進や、社会的処方への有効性に関する研究を進めています。特にコミュニケーションの連続性に着目し、個人の回復と社会の持続可能性に貢献する実践的な研究を展開しています。



主な授業科目 ● 健康・医療心理学 ● コミュニティ心理学



須藤 智
Suto Satoru

総合人間科学コース

- 認知心理学
- 認知工学・科学
- 高齢者心理学

誰にとっても使いやすい道具のデザイン原理と人間の心の仕組みの解明

「認知工学」と「認知心理学」の考え方や方法を使って、人間が日常的に利用する道具（モノ・サービス）の使いやすさに関する研究と人間の認知過程、認知機能の特性の解明に関する研究をしています。近年は、(1)道具のユーザビリティの向上と利用学習の支援に関する研究、(2)ロボットなど新しい道具についての高齢者にとっての使いやすさの研究、(3)人間の記憶や注意、認知的加齢に関する基礎研究、(4)地域の高齢者の皆さんと一緒に使いやすい道具を共創するリビング・ラボの研究活動を行っています。



主な授業科目 ● 知覚・認知心理学 ● デザイン心理学



正木 祐史
Masaki Yushi

総合人間科学コース

- 少年法
- 刑事訴訟法
- 刑事政策

刑事政策の意義と拡がり～よりよい社会の構築への道筋

刑事手続の渦中にある人や立ち直りのただなかにある人に対して、法や司法ができることは色々あるけれど、法や司法だけでその人の抱える課題を全て解決できるとは限らない。教育や心理、福祉や医療、行政も民間セクターも個人も含め、様々な専門家や市民が、適切なコーディネートを得て、その人のよりよき人生への足掛かりとなる、その営みが総体としてよりよき社会の構築につながっていく。そんなことを目指して研究をしています。



主な授業科目 ● 国際・地域の安全と法 ● 人間行動科学と刑事政策



満下 健太
Mitsushita Kenta

総合人間科学コース

- 認知心理学
- リスク学
- 学校安全

見えないリスクは人にもどう映るのか？

危険が生じる可能性(リスク)を人がどのように評価・判断し、態度形成するか(リスク認知)を、認知心理学や社会心理学に関連して研究しています。広く言えば、人の思考・判断・意思決定のプロセスに興味があり、調査や実験などから検討しています。また、特に学校場面を中心として、どのようなリスクがあるのか、そうしたリスクを個人や社会が適切な程度で受け入れるためにはどのような対応が必要なのかについて考えています。



主な授業科目 ● 共創科学実験法(人間科学) ● 安全とリスクの心理学



村田 真一
Murata Shinichi

総合人間科学コース

- スポーツ経営学
- スポーツ政策学
- ハンドボール

暮らしを支えるスポーツマネジメント

私たちのスポーツ生活(する、観る等)の背景には、必ずと言っていいほどマネジメントの動きがあることに気付いていますか？その実例として、スポーツクラブの育成や施設・スポーツイベントの提供、スポーツメディアの存在等があります。私が専門とするスポーツ経営学では、スポーツ生活がマネジメントによって支えられていることの社会的意義やその効果について、法律や政策、または倫理問題と絡めながら検証していきます。



主な授業科目 ● スポーツ経営学 ● スポーツ文化論

令和9年度入試における主な変更点について

本学部では、令和9年度から一部の選抜方式を変更します。

総合型選抜の全学科枠では、受験生の皆さんの多様な個性や得意分野をより適切に評価できるよう、3つの重点型に分けて募集を行います。

さらに、試験内容はこれまでの聴講・論述試験から小論文へと見直しました。また、一般選抜の前期日程では、得意科目を活かして受験できるよう、文系科目型の「A方式」と理系科目型の「B方式」という2つの方式に分けて募集を実施します。後期日程では、個別学力試験における英語を廃止し、小論文のみへと科目を一本化することで、より挑戦しやすくしました。各選抜方式における概要につきましては、以下の表をご確認ください。

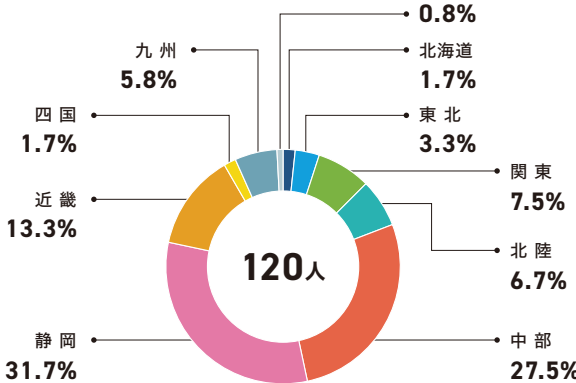
選抜方式	枠・方式(定員)	試験内容(配点、一部未公開)
総合型選抜 (社会人若干名を含む)	全学科枠(30)-スポーツ重点型(10) -研究・技術活動重点型(10) -国際・地域活動重点型(10) 専門・総合学科枠(5) 社会人枠(若干名)	論文(100)、面接(100) スポーツ重点型のみ:小論文(100)、面接(100)、活動調査書(150) *英検2級相当以上の級位・スコアを持つ者はその成績に応じて加点します(最大20点)
学校推薦型選抜	(12)	大学入学共通テスト、面接
一般選抜 前期日程	A方式[文系科目型](24) B方式[理系科目型](24)	大学入学共通テスト、個別学力検査:英語、国語・数学から1つ選択
一般選抜 後期日程	(20)	大学入学共通テスト、小論文
私費外国人留学生選抜	(若干名)	面接

※詳細は各募集要項を確認してください。

入試データ (令和8年度)

		募集人数	志願者	受験者	合格者
総合型	全学科枠	20	49	49	21
	専門学科及び総合学科枠	8	16	16	8
	社会人枠	若干名	0	0	0
学校推薦型		20	28	28	20
一般選抜(前期)		47	132	109	51
一般選抜(後期)		20	251	73	31

入学者出身地域 (令和8年度)



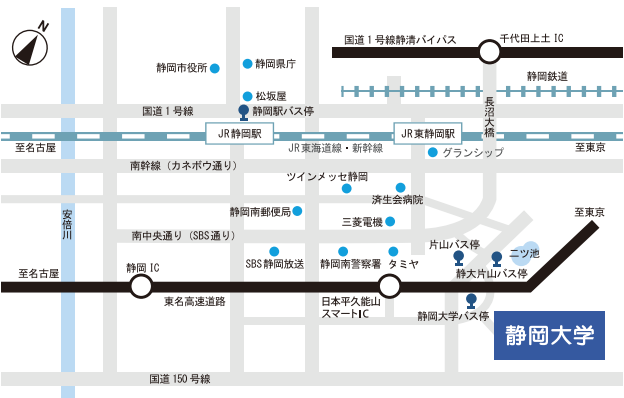
3つの方針(ポリシー)

グローバル共創科学部の3つの方針(ポリシー)は右記のウェブサイトに掲載しています。



入学者選抜の情報

選抜方法の概要は、静岡大学の学部入試ウェブサイトに掲載されている「入学者選抜に関する要項」や各選抜の募集要項に記載しています。



交通機関: JR静岡駅北口の静鉄バス8番のりばから、「[急行]静岡大学図書館前」行き(平日のみ運行で静岡大学休校日は運休)に乗り、「静岡大学図書館前」で下車。または、「静岡大学」or「東大谷」or「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行きに乗り、「静岡大学」or「片山」で下車。(所要時間約25分)



最新の情報については、本学部ウェブサイトにて公表します。

<https://www.gkk.shizuoka.ac.jp>

